

# シューマニアーナ

～ドイツのロマンティックな愛と詩情につつまれて～

毎回大好評のコンサートシリーズ「小倉貴久子と巡るクラシックの旅」がいよいよ最終回！第5弾となる今回はロベルト・シューマンとその妻クララ・ヴィーク・シューマンの作品をクローズアップ。歌曲や室内楽など幅広い作品を残したロベルトですが、クララとの関係性や、それぞれが書いた「ピアノ協奏曲」がどのように繋がっているのかにも要注目です。これらの作品の魅力と今回のコンサートの聴きどころについて、フォルテピアノ奏者の小倉貴久子さんにお話を伺いました。



小倉貴久子  
(フォルテピアノ奏者)

ーこれまで4回に渡ってお贈りしてきた本シリーズもいよいよ最終回ですね。今回シューマンを選んだ理由や、その作品の魅力について教えてください。

シリーズではこれまでモーツァルト、ベートーヴェン、ショパンの時代を巡ってきました。当時の管楽器や弦楽器を操るピリオド楽器奏者のみなさまとともに、ピアノ協奏曲、ソロ、そしてさまざまな編成の室内楽などバラエティ豊かなプログラムでお楽しみいただきました。これまでも贅沢なラインナップだったのですが、シリーズ最後は、「こんな企画は北とぴあでしか出来ない！」という超ゴージャス版の、シューマン夫妻のピアノ協奏曲がメインのコンサートです。ちなみにシューマン夫妻が愛したウィーン製のフォルテピアノと、ピリオド楽器によるシューマンのピアノ協奏曲は、本邦初のコンサートになると思います。

最近では、ショパンが愛したプレイエルのフォルテピアノが有名になり、ショパンの時代のピリオド楽器も注目されるようになってきましたが、同時代に活躍したシューマン夫妻を取り囲む楽器の音色はまたパリのショパンとは異なり、まさにドイツロマン派のやわらかく芳香な響きをもっています。シューマン夫妻の詩的なファンタジーは、これらの音色から生み出された世界だと実感することができるでしょう。



## ▶ ロベルト・シューマン

Robert Alexander Schumann (1810 - 1856)

ドイツのツヴィッカウ出身※1。幼い頃から音楽的な才能を発揮していたが、大学では法律学科へ進学する。しかしピアニストを志して厳しいピアノ教師のフリードリヒ・ヴィークに師事するようになり、その娘であるクララと出会った。その後指の故障によりピアニストへの道は断念し作曲家の道へ。交響曲から合唱曲まで幅広い分野の作品を残したが、特にピアノ曲と歌曲において高く評価されている。書店を経営していた父の影響で文学への造詣も深く、音楽評論の活動なども行っていた。

※1…当時はプロイセン王国

ー 今回もピアノソロ曲だけではなく協奏曲や室内楽、さらには歌曲ととても盛り沢山な内容になっていますね。選曲の上で意識したことはありますか？

シューマン夫妻の魅力にさまざまな角度から光を当てたプログラムを組みました。青年シューマンはピアニストへの夢をもっていたため、若い頃はピアノソロ曲を中心に作曲をしています。天才ピアニスト・クララとの遠距離恋愛中は、ピアノ曲でふたりの気持ちが結ばれていたといってもいいかもしれません。クララの父ヴィークの猛反対を押し切り、訴訟に勝訴する形で晴れて結婚。その幸せな時代は「歌曲の年」と言われ、眠っていた宝石が溢れ出るかのように素敵な歌曲がたくさん生み出されました。そしてその勢いは充実の室内楽作品へと移っていきます。そんなシューマンの人生を辿るように、さまざまなジャンルの珠玉の名曲をお楽しみいただく構成となっています。

## ▶ クララ・ヴィーク・シューマン

Clara Wieck Schumann (1819 - 1896)

ライプツィヒ生まれ。5歳の頃から父フリードリヒにピアノを習い始め、9歳で音楽界デビュー。幼い頃から天才ピアニストとして有名で、ゲーテやショパンからも絶賛されていた。ロベルトとの出会いは9歳の時だが、彼もそのピアノの手腕には驚いたという。父にはロベルトとの結婚は猛反対されたが、後に和解している。

ドイツでは現代においても100マルク紙幣※2にその肖像が使われていた。

※2…ヨーロッパ共通通貨がユーロに統合される前（1998年まで）に使用されていた。



ー 同シリーズではこれまでたくさんのフォルテピアノが登場しましたが、今回使用するのはJ.B. シュトライヒャー製のものですね。シューマンを演奏するのにこの楽器を選んだ理由を教えてください。

ヨハン・バプティスト・シュトライヒャーの祖父はウィーン式アクションを発明したシュタイン。その娘ナネットはシュトライヒャーと結婚してフォルテピアノ製作工房をウィーンに開き、ベートーヴェンとも家族ぐるみでつき合うなどウィーンを代表する製作会社になりました。その夫妻の子、ヨハン・バプティストは会社を引き継ぎ、シュトライヒャーのフォルテピアノは、ウィーンを代表する一流老舗メーカーとして絶大な信用を得るようになります。

シューマンの生家は裕福だったので、父は少年ロベルトの才能を伸ばすべく、J.B. シュトライヒャーのピアノを購入します。また、クララの父ヴィークは有名なピアノ教師の傍らピアノ仲介業も営んでいたため、子供の頃からクララの家はさまざまなフォルテピアノの出入りがあり、J.B. シュトライヒャーのピアノはクララも幼少期から慣れ親しんでいた楽器でした。ロベルトのピアノ協奏曲は1845年に完成されたのですが、それはまさにこのJ.B. シュトライヒャーが製作された年なのです。シューマン夫妻と縁の深いフォルテピアノで贈る「シューマニアーナ」は特別なステージになると思います。



## ▶ J.B. シュトライヒャー (1845年製)

ウィーン式アクションと呼ばれるシンプルな作りを持ち、タッチが軽いのが特徴。ハンマーの材質も皮なので、音の立ち上がりがはっきりとしている。ドイツ系ロマン派の作曲家と深い関係をもつ楽器で、ロベルトは「言葉で言い表すことができないほど美しい音色」と絶賛している。

ー 今回のメインとなるのはロベルトとクララがそれぞれ作曲した「ピアノ協奏曲」ですね。これらの作品の聴きどころを教えてください。

---

前述のようにロベルトのピアノ協奏曲は1845年完成でロベルトが35歳の頃。それに対してクララのピアノ協奏曲はその10年前、1835年完成でクララが16歳のとき。どちらも同じ調性のイ短調で、第1楽章のテーマはクララが「ラ-シ-ド」と始まるのに対してロベルトは「ド-シ-ラ」。双子のような近親感があります。そして、実はクララの協奏曲のオーケストラパートはロベルトが完成させています。10年後にロベルトは自身のピアノ協奏曲を作曲することになるのですが、このオーケストレーションの経験は大きく実を結ぶこととなります。またロベルトの第1楽章のテーマはクララ（Clara）の名前が織り込まれていて、まさにふたりの愛の結晶のような作品になっています。



▶2021年3月13日開催  
「小倉貴久子と巡るクラシックの旅 Vol.3 まるごとベートーヴェン」より

ー シューマンといえばやはり「トロイメライ（夢）」が有名だと思います。小倉さんの今後の夢（目標など）はありますか？

---

過去に作曲された作品を当時の楽器で演奏すると、タイムスリップして作品の世界に入り込んでいくような喜びに満たされます。そんな夢のような企画のコンサートができて、まさに夢の中に生きているようです。そんな世界を、多くの方に共に体験していただきたいと願っています。

そして、世界各地での不穏な足音が一刻も早く消え去り、誰もが安心して暮らせる平和な世の中となって、人生を豊かにしてくれる音楽を通して笑顔が広がっていくような、そんな音楽活動することが夢です。



ー インタビューをご覧の皆さまへメッセージをお願いします！

---

「小倉貴久子と巡るクラシックの旅」シリーズ最終回。愛と夢が広がって、心が温かくなるようなコンサートにしたいと思っています。みなさまのご来場を演奏者一同心よりお待ちしております！

\*\*\* \*\*



## 小倉貴久子 (フォルテピアノ)

東京藝術大学を経て同大学大学院ピアノ科修了。阿姆斯特ダム音楽院を特別荣誉賞つき首席卒業。日本モーツァルト音楽コンクール、ピアノ部門第1位。ブルージュ国際古楽コンクール、アンサンブル部門及びフォルテピアノ部門で第1位及び聴衆賞を受賞。様々な時代楽器を弾き分けた多彩なコンサートや音楽祭、テレビ、ラジオへの出演も多い。50点以上リリースのCDの多くが各新聞紙上や「レコード芸術」誌等で推薦盤や特選盤に選ばれている。平成24年度文化庁芸術祭【大賞】受賞、第30回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門【独奏・独唱部門賞】、第48回 ENEOS 音楽賞【洋楽部門奨励賞】受賞。著書にカラー図解『ピアノの歴史 (CD付き)』(河出書房新社)他。東京藝術大学及び東京音楽大学講師。シリーズコンサート「小倉貴久子《フォルテピアノの世界》」など次々と打ち出される企画から目が離せない、唯一無二のピアニスト。 <https://www.mdf-ks.com/>

### 小倉貴久子と巡るクラシックの旅 Vol.5

## シューマニアーナ ～ドイツのロマンティックな愛と詩情につつまれて～

- ◆日時 2023年2月18日(土) 15:00開演(14:30開場)
- ◆場所 北とぴあさくらホール (JR京浜東北線・南北線「王子駅」徒歩2分)
- ◆料金

一般	S席：4,500円 (S席ペア：8,000円) A席：4,000円
北区民	S席：3,800円 (S席ペア：7,000円) A席：3,300円
25歳以下	S席：2,250円 A席：2,000円

※e+、カンフェティではペア券の取扱いなし

### ◆プレイガイド

- ・北とぴあチケットオンライン <https://p-ticket.jp/kitabunka>
- ・北とぴあ1階チケット売場 窓口のみ (10:00～20:00)  
※臨時休館日は10:00～18:00、全館休館日は休業
- ・チケットぴあ (Pコード：224-811) <https://t.pia.jp/> ※セブン-イレブン店頭でも直接お買い求めいただけます。
- ・e+(イープラス) <https://eplus.jp/> ※ファミリーマートでも直接お買い求めいただけます。
- ・カンフェティ <https://www.confetti-web.com/>  
電話予約 Tel.0120-240-540 (平日10:00～18:00)

- ◆出演 小倉貴久子 (フォルテピアノ)  
渡辺祐介 (指揮・バリトン)  
シューマニアーナ・オーケストラ (ピリオド楽器使用)

### ◆予定曲

- 《子供の情景》作品15より〈トロイメライ〉 ♠
- ピアノ協奏曲 イ短調 作品7より第1楽章 ♥
- オーボエとピアノのための3つのロマンス 作品94より第2曲 ♠
- ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44より第3楽章 ♠
- 《ミルテの花》作品25より〈献呈〉、《二人の擲弾兵》作品49-1 ♠
- 幻想曲 ハ長調 作品17より第1楽章 ♠
- 《音楽の夜会》作品6より第2曲〈ノットウルノ〉 ♥
- ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 ♠

♠…ロベルト・シューマン

♥…クララ・ヴィーク・シューマン

使用楽器：J.B.シュトライヒャー (1845年製)

※曲目・出演者は変更する場合がございます。